

第四回 健康・医療新産業協議会における提言

1. 今後のヘルスケア産業の国際展示会の開催について

アジア健康構想や、アフリカ健康構想などのヘルスケア産業の国際展開の実現に向けて、ぜひ、2025年大阪・関西万博を契機に、国が主導となり、官民連携で、インバウンド、アウトバウンドでのヘルスケア産業のシンポジウムや展示会の設置についてご検討いただきたいと思います。

今、何よりも大切なことは、「公的保険外の領域のヘルスケア産業とは何か？」ということについて、現在の日本の先進事例と、近未来に予想されるあるべき姿を、国内外の多くの人たちに、具体的に見える形で提供していくことだと思います。

当団体は、スポーツと健康産業に関わる関連団体・企業で構成されており、昭和63年の創立時から、当時の通商産業省との連携のもと、国内のスポーツ・健康関連企業による展示会を開催していましたが、現在は「SPORTEC 実行委員会」として、純民間にて活動しております。

「SPORTEC」は2009年から開催しており、今や500社・団体を超える世界のスポーツ・健康関係企業・団体・大学等が、最新の製品・技術・サービスを発表する、日本最大のスポーツ・健康産業に関する総合展示会へと発展してきています。

現在、国民皆保険制度の中で、医療水準の向上や、食生活・ヘルスケア産業などの充実を背景として、日本の平均寿命・健康寿命が世界でもトップクラスであることは、広く知られております。

現在、残念ながら世界で順位を落とし続けている経済指標や、その他指標を上向きに転じさせるエンジンとしても、日本のヘルスケアサービスが担う役割は非常に大きいと考えています。

ぜひ世界に、「健康長寿社会実現に向けた新たなヘルスケア産業の創出の必要性」について、国が主導となり、官民連携での優れたヘルスケアサービスを積極的に打ち出していくような仕組みづくりをご検討いただきたいと思います。

2. 国際展開は、まずアジアから。

シンポジウムや展示会で日本の実情をアジアの国々に知らしめていくことも大事ですが、海外の一般市民に、日本の健康的な生活様式を直接に体験してもらう場をつくるのが、結果として、その国の政治家・産業界に日本を印象付ける大きなきっかけになるのではないかと思います。

アジアの主要な国々には、既に日本のショッピングセンターが存在し、それなりに日本の生活の普及に役立っております。例えば、弊社(株式会社ルネサンス)では、2014年と2015年にかけて、ベトナムのハノイと、ビンズン省の「イオンモール」の中に、スポーツクラブをオープンいたしました。特にハノイでは一般的なトレーニングジムとスタジオに加え、日本式のお風呂やインドアスイミングプールを設置し、東南アジアで初めての児童のスイミングスクールも開催し、その結果として、水難事故で亡くなることも多い、同国での事故防止に貢献していることを感謝されております。

アジアの日系ショッピングセンターの中に、スポーツクラブだけではなく、一角を『ジャパニーズ・ヘルスケア・ヴィレッジ(仮称)』として開設するような、新たな取り組みを、官民連携で、立ち上げていくことをご提案したいと思います。

例えば、そこでは日本の充実した食生活・ヘルスケア産業関連の店舗を揃えるとともに、施設を中心に、健康度をはかるデバイスなどを揃えた小さなモデル住宅を展示し、「ヘルスケアサービス」の紹介や、企業への「健康経営」のコンサルティングなど、日本の健康文化を啓発する「場づくり」を始めてみてはいかかかなと思っております。また、このような企画にはJETROなどにも、積極的に加わってもらうことで、非常に新規性のある、ワクワクとした楽しいワーキンググループになるのではないかと推察します。

以上